

健康長寿社会形成ビジネスモデル創出調査事業について

1 あいちオレンジタウン構想 (2017年9月～)

- 基本理念
『地域で暮らし、学び、働く人々が、「認知症に理解の深いまちづくり」に「じぶんごと」として取り組む社会の実現』
- 対象地域
あいち健康の森を中心とした大府市、東浦町全体を対象地域とする。
ただし、広域的な展開が可能な取組については、2次医療圏単位や全県で展開をする。

【第2期アクションプラン】

あいちオレンジタウン構想を推進し、認知症施策の更なる充実・強化を図るため策定した3年間の計画 (2021年度～2023年度)

- 取組の考え方
あいち健康の森内に専門機関が集積する利点を活かし、県内の地域資源との有機的な連携を図ることにより、「地域づくり」と「研究開発」の両面から、先進的・重点的な取組を進めていく。
具体的には、以下の7つの柱に沿って取組を実施していく。

<第2期アクションプラン7つの柱>

地域づくり	① 本人発信支援 (認知症への理解促進)
	② 意思決定支援
	③ 地域人材の活用
	④ 企業連携
	⑤ 若年性認知症の人への支援
	⑥ 災害時等における支援
研究開発	⑦ 研究開発



第2期アクションプラン ⑦ 研究開発

国立長寿医療研究センターを中核とした産学官連携による共同研究の推進

<取組の方向性> (抜粋)

- 最先端の技術シーズの実用化にあたっては、産業界の活力を積極的に活用し、引き続き共同研究開発に取り組むとともに、その成果の速やかなる社会実装を目指すため、モデル実証等の取組を進めます。また、**産業界の活力の活用にあたっては、ステーションA iプロジェクトとの連携によるスタートアップの活用も図っていきます。**

2 国立長寿医療研究センターについて

- ・ 全国で6つめの国立高度専門医療研究センター (ナショナルセンター) として、平成16年に開設。
- ・ 認知症、フレイルなどの老年症候群に対する先進的な医療をはじめとして、高齢者医療のモデルとなる医療を提供するとともに、超高齢社会で求められる医療・介護・福祉を担う人材育成を行っている。



国立長寿医療研究センター (所在地 大府市)

<研究所>

- ① ジェロサイエンス研究センター
- ② 認知症先進医療開発センター
- ③ 老年学・社会科学研究センター
- ④ 健康長寿支援ロボットセンター
- ⑤ メディカルゲノムセンター
- ⑥ 研究推進基盤センター

<病院>

- ⑦ もの忘れセンター
- ⑧ ロコモフレイルセンター
- ⑨ 感覚器センター
- ⑩ 先端医療開発推進センター
- ⑪ 歯科口腔先端医療開発センター
- ⑫ 長寿医療研修センター

※国立長寿医療研究センターHPの組織図等を基に作成

3 調査の概要

- 調査目的
愛知県では、2018年10月にAichi-Startup戦略を策定し、ステーションA iプロジェクトとして、スタートアップ支援施策の展開に尽力してきたことから、第2期アクションプランでは、これらの2つの施策を融合することとし、国立長寿医療研究センターを中核とした産学官連携による共同研究の推進及びその共同研究の速やかな社会実装に向け、スタートアップを活用することとした。
そこで、この調査では、速やかな社会実装につなげるためのスタートアップを活用した共同研究における、マネタイズの実現、新ビジネスモデルの創出の可能性について検証する。

○ 調査内容

- ① 優先的に取り組むべき研究開発課題の抽出
- ② 課題解決につながる研究シーズ、革新的ビジネスアイデア、最先端技術・技能の洗い出し
- ③ 共同研究テーマの設定
- ④ 共同研究の開始と事業化に向けたビジネスモデルの検討
- ⑤ 出口戦略を踏まえた経営資源の確保の検討

